

TICAD9 テーマ別イベント

# グローバルヘルスへの 投資に向けて：

官民連携による、インパクト投資を通じた、  
アフリカと世界の保健課題解決のための  
イノベーティブ・ソリューションの共創

結果報告書

2025 年 8 月 21 日

# 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| プログラム .....                  | 3  |
| パート 1：セミナー .....             | 5  |
| 1.1 開会の挨拶 .....              | 5  |
| 1.2 基調講演 .....               | 6  |
| 1.3 パネルディスカッション .....        | 7  |
| 1.4 まとめ .....                | 10 |
| 1.5 閉会の挨拶 .....              | 10 |
| Part 2: ネットワーキング・セッション ..... | 11 |
| 2.1 挨拶 .....                 | 11 |
| 2.2 事例紹介① .....              | 11 |
| 2.3 事例紹介② .....              | 12 |
| 2.4 閉会の挨拶 .....              | 12 |
| Annex: 登壇者略歴 .....           | 13 |

# プログラム

## パート1: セミナー (17:30~18:55)

(司会 GSG Impact Ambassador 鵜尾 雅隆氏)

### ●開会の挨拶

- ・ 友納 理緒 内閣府大臣政務官
- ・ 浅澤 健 トリプル・アイ共同議長/シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役
- ・ キャサリン・ラッセル UNICEF 事務局長

### ●基調講演

- ・ ネンナ・リリー・ヌワブフォ アフリカ開発銀行グループ (AfDB) 地域開発・統合・ビジネスデリバリー担当副総裁
- ・ トリナ・ハク 世界銀行 西・中央アフリカ地域 人間開発担当地域局長

### ●パネルディスカッション(モデレーター：トリプル・アイ共同議長、FIND 理事長 アヨーデ・アラキジャ博士)

- ・ 平田 仁 JICA 上級審議役
- ・ エトレバ・カディリ UNICEF 東部・南部アフリカ地域事務所代表
- ・ ディエン・ケイタ UNFPA 事務局長代行
- ・ イルダ・クレーバ mothers2mothers アフリカ地域戦略的運営・パートナーシップ担当ディレクター
- ・ 瀬戸 欣哉 株式会社LIXIL 取締役 代表執行役社長 兼 CEO
- ・ 武藤 めぐみ 株式会社みずほフィナンシャルグループ常務執行役員 グループ副CSuO

[パネルディスカッションへのコメント]

- ・ フランク・アスワニ博士 African Venture Philanthropy Alliance (AVPA) CEO

### ●まとめ

- ・ スティーブ・デービス トリプル・アイ共同議長/ゲイツ財団 シニアアドバイザー

### ●閉会の挨拶

- ・ 鈴木秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使

## パート2: ネットワーキング・レセプション(19:00～20:30)

### ●ネットワーキング開始

### ●ご挨拶

- ・ マグダ・ロバロ UHC2030 共同議長
- ・ 鵜尾 雅隆 GSG Impact Ambassador

### ●事例紹介①

- ・ 加藤 孝一 日機装 代表取締役 社長執行役員
- ・ フィリップ・デュヌトン ユニットエイド事務局長

### ●事例紹介②

- ・ 半田 滋 AAIC ディレクター
- ・ ロニーク・ボラ Revital Healthcare ディレクター

### ●閉会の挨拶

- ・ サウル・ゲレロ 国連児童基金（UNICEF）東京事務所代表、UNICEF 公的パートナーシップ局

# パート 1：セミナー

## 1.1 開会の挨拶

### 友納 理緒 内閣府大臣政務官



友納理緒 内閣府大臣政務官は、各界を代表する方々の参加を得てイベントを開催できたこと、また、UNICEF に本イベントを共催いただいたことに感謝の意を表した。また、新たに発表された「アフリカ持続可能な保健投資促進パッケージ」を含むユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) における日本のリーダーシップ

を強調し、世界の保健分野の課題に取り組むために、マルチステークホルダーによる連携の強化を呼びかけた。

### 渋澤 健 トリプル・アイ共同議長/ シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役



渋澤健 トリプル・アイ共同議長は、発足時 37 機関であったトリプル・アイのパートナー数が現在では 110 を超えていることに触れ、トリプル・アイの目覚ましい軌跡について概説した。また、インパクト投資を通じてグローバルヘルス分野における資金ギャップを埋めるというトリプルIの役割や、政策枠組み、インパクト

測定ツールの重要性などを強調した。

### キャサリン・ラッセル UNICEF 事務局長



キャサリン・ラッセル UNICEF 事務局長は、子どもの健康と生存の向上を進める上で、人道的緊急事態、最近の政府開発援助 (ODA) 削減などの危機により大きなリスクにさらされていることを振り返った。また、革新的な資金調達メカニズム、企業とのパートナーシップ、多分野にわたる協力が、すべての人に利益をもたらす教育と繁栄の基礎を築くための

道筋である旨呼びかけた。

## 1.2 基調講演

### ネンナ・リリー・ヌワブフォ アフリカ開発銀行グループ (AfDB) 地域開発・統合・ビジネスデリバリー担当副総裁



ネンナ・リリー・ヌワブフォ アフリカ開発銀行グループ (AfDB) 地域開発・統合・ビジネスデリバリー担当副総裁は、同行の革新的な資金調達戦略や、ブレンデッド・ファイナンス・プロジェクトなどの最近のアフリカにおける保健関連インフラへの投資について紹介した。

### トリナ・ハク 世界銀行 西・中央アフリカ地域 人間開発担当地域局長



トリナ・ハク 世界銀行地域局長は、同行の「Africa Initiative for Medical Manufacturing (AIM2030)」を紹介し、アフリカの輸入医薬品への依存を減らすために、関係者が協働して取り組む必要性を強調した。

### 1.3 パネルディスカッション



セミナーのハイライトとして、トリプル・アイの共同議長であるアヨーデ・アラキジャ博士の司会によるダイナミックなパネルディスカッションが行われた。パネリストには、JICA、UNICEF、UNFPA、みずほフィナンシャルグループ、mothers2mothers、LIXIL など、さまざまなセクターの代表者が参加した。パネルディスカッションでは、アフリカ

のヘルスケア分野における投資のリスク軽減、革新的な資金調達メカニズムの役割、保健システムにおける資金不足に対処するためのソリューションのスクラビリティなどが議論された。各パネリストは、アフリカのヘルスケア分野においてインパクト投資を促進するための課題や機会について洞察を共有し、信頼に基づく関係の構築や、リスクへの対処、それを可能にする環境整備の重要性を強調した。



**エトレバ・カディリ UNICEF 東部・南部アフリカ地域事務所代表**は、度重なる公衆衛生危機、増大する国家債務、政府開発援助（ODA）の大幅削減などにより、アフリカの保健システムが深刻な状況に陥っていることを指摘した。その上で、UNICEF が様々なパートナーとの連携を重視している旨強調し、「*Make a Splash!*」イニシアティブを通じた LIXIL との協力や、

企業との連携促進における UNICEF の役割を紹介した。また、ヘルスケア分野における資金ギャップを埋めるための重要なツールとして、ブレンデッド・ファイナンスや官民パートナーシップ（PPP）などの革新的な資金調達メカニズムの重要性を述べた。



**瀬戸欣哉 株式会社 LIXIL 取締役 代表執行役社長 兼 CEO** は、同社のユニークなソーシャルビジネスである「SATO」と、持続的な衛生市場の開発に向けた取組について説明した。その上で、SATO を単なる慈善活動ではなく、社会的インパクトとビジネスの成長を両立させる戦略的な取組であると説明した。アフリカでのビジネス展開には、社会政治的な不安定さやインフラの不備などの潜在的なリスクがあるとしながらも、長期的なリターンを視野に、投資しやすい「土壌」を育てることが重要である旨強調した。また、5 年間に

わたる「Make A Splash!」を通じた UNICEF とのパートナーシップからの教訓を踏まえ「パートナーシップこそが新たな通貨である」と述べ、参加者に対し、アフリカ市場における投資のリスクを軽減し、必需品の需要を促進するための持続的かつ協力的な取組を呼びかけた。



**イルダ・クレーバ mothers2mothers アフリカ地域戦略的運営・パートナーシップ担当ディレクター**

は、実践者の視点から、アフリカの保健関連指標を向上させる上でコミュニティ・ヘルスワーカーが果たす重要な役割を強調した。また、データ主導型プログラムや、ユニセフや UNFPA などとの多分野にわたるパートナーシップについての洞察を共有した。

さらに、mothers2mothers がこれまで HIV の母子感染予防に取り組んできたことや、これらのイニシアティブをより広範な保健システムに拡大するための取組についても説明した。最後に、官民双方の関係者に対し、インパクト重視の投資機会を探索するよう呼びかけ、アフリカの保健医療分野における社会的インパクト債の可能性についても強調した。



**ディエン・ケイタ UNFPA 事務局長代行**（※同氏は 2025 年 8 月 29 日付で事務局長に就任）は、ヘルスケア関連投資の戦略においてジェンダーの視点を盛り込んだアプローチを取ることの重要性を強調した。妊産婦の保健関連のアウトカムを改善するための UNFPA の取組について事例を交えて紹介するとともに、透明性や測定可能な成果を確保するための枠組

みについて説明した。また、アフリカの長期的な健康と発展のために不可欠な推進力として、女性や女兒を優先させるための大胆な行動と具体的なコミットメントの重要性を強調した。



**武藤 めぐみ 株式会社みずほフィナンシャルグループ常務執行役員 グループ副 CSuO** は、金融セクターの観点から、アフリカのヘルスケア分野におけるインパクト投資に関し、日本企業の役割について紹介した。また、同氏の開発金融機関での経験も踏まえ、保健分野に民間資金を動員する機会と課題について述べた。さらに、セクターを越えた協力の重要

性を強調するとともに、ヘルスケア分野における投資の社会的・財務的リターンを評価するための包括的なインパクト指標の必要性を述べた。



最後に、**平田 仁 JICA 上級審議役**は、インパクト投資のための民間資金動員に係る JICA の先駆的な取組について紹介した。JICA の最近の動きとして、ファンド投資活動のジュニア・トランシェへの拡大や、JICA 法の改正を通じて現地の金融機関や債券投資に対してポートフォリオ保証を発行できるようにしたことなどをした。また、日本としてブレンデッド・ファイナンス・モデルを通じたアフリカの保健関連インフラの強化に力を入れていることを述べ、スケーラブルなヘルスケア・ソリューションへの道筋を作るためのトリプル・アイのようなパートナーシップを称賛した。



フロアからのコメントにおいては、**African Venture Philanthropy Alliance (AVPA) の CEO** である**フランク・アスワニ博士**が登壇した。AVPA は、セミナー後のネットワーキング・セッションにおいて、トリプルIのパートナーとして正式に歓迎された。アスワニ博士は、アフリカのヘルスケア分野におけるインパクト投資の役割に関し、アフリカが資源不足と同分野における体制的な投資ギャップの2つの課題に直面していることを強調した。これらの問題に対処するための革新的なメカニズムとしてインパクト投資の役割について述べ、政府、開発パートナー、民間投資家間の協力を強化する必要性を強調した。最後に、関係者に対して、短期的な解決策を超えて、アフリカ全体の保健システムに世代を超えた影響を与える長期的な投資を優先するよう促した。

## 1.4 まとめ

### スティーブ・デービス トリプル・アイ共同議長 ゲイツ財団 シニアアドバイザー



スティーブ・デービス トリプル・アイ共同議長は、政策やインパクト投資に向けた環境整備の重要性を強調するとともに、ゲイツ財団が今後 20 年間でアフリカを中心として 2000 億ドルの支援を行うというコミットメントを紹介し、参加者に対して民間資金を動員するためのより積極的な取組を呼びかけた。

## 1.5 閉会の挨拶

### 鈴木秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使



鈴木秀生 国際保健担当大使は、日本政府がトリプル・アイと、新たに発表された「アフリカ持続可能な健康投資促進パッケージ」という 2 つの主要なイニシアティブを通じて、国際保健分野における資金動員を推進することにコミットしていく旨を説明した。その中で、トリプル・アイが投資家にインセンティブを与えることで「供給サイド」に対応するものであるのに

対し、後者のパッケージは強固なガバナンスや持続可能な規制枠組み、強靱なインフラなどを通じてアフリカの投資環境を改善することで「需要サイド」を支援するものであると説明した。これら 2 つのアプローチの協力が不可欠であることを強調し、アフリカと持続可能な保健ソリューションを共創することへの日本のコミットメントを強調した。

## Part 2: ネットワーキング・セッション

### 2.1 挨拶



#### **マグダ・ロバロ UHC2030 共同議長**

マグダ・ロバロ UHC 2030 共同議長は、ヘルスケア分野における資金ギャップを埋めることの重要性と、革新的なソリューションを共創する上での日本の技術と専門知識の重要性を強調した。



#### **鵜尾 雅隆 GSG Impact Ambassador**

続いて、鵜尾 雅隆 GSG Impact Ambassador は、JICA 法の改正やインパクト・コンソーシアムの設立など、日本におけるインパクト投資の機運が高まっていることを紹介した。

### 2.2 事例紹介①



ネットワーキング・セッションでは、日本とアフリカの連携に関する好事例やインパクトのあるケース・スタディが紹介された。**加藤 孝一 日機装 代表取締役 社長執行役員**と**フィリップ・デュヌトン ユニットエイド事務局長氏**は、日機装とユニットエイドが東アフリカにおいてケニアおよびタンザニアの地方自治体と連携して進めている医療

酸素製造に関するプロジェクトについての知見を共有した。

## 2.3 事例紹介②



続いて、半田 滋 AAIC ディレクターとロ  
ニック・ボラ Revital Healthcare ディレ  
クターは、日本の AAIC とアフリカ企業と  
のパートナーシップについて発表した。

## 2.4 閉会の挨拶

**サウル・ゲレロ 国連児童基金（UNICEF）東京事務所代表、UNICEF 公  
的パートナーシップ局**



サウル・ゲレロ 国連児童基金（UNICEF）東京事務所代  
表、UNICEF 公的パートナーシップ局は、閉会にあたり、  
グローバル・パートナーシップの強化に向けた UNICEF  
のコミットメントを改めて表明し、参加者に対し、アフ  
リカにおける喫緊の保健課題に取り組むための協力を  
継続するよう促した。



## Annex: 登壇者略歴

◆歓迎の挨拶（\*登壇順）

|                                                                                     |                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p><b>友納 理緒 内閣府大臣政務官</b></p> <p>東京生まれ。東京医科歯科大学卒。早稲田大学大学院法務研究科修了。看護師、保健師、弁護士として活躍後、2022年に参院初当選。2024年より現職にて健康・医療戦略等を担当。</p>                                    |
|   | <p><b>波澤 健 トリプル・アイ共同議長 / シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役</b></p> <p>複数の外資系金融機関およびヘッジファンドでマーケット業務に携わった後、2001年にシブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業し代表取締役に就任。コモンズ投信株式会社取締役会長も務める。</p> |
|  | <p><b>キャサリン・ラッセル UNICEF 事務局長</b></p> <p>190以上の国と地域で子どもの支援を行うUNICEFの第8代事務局長。女性、女の子など弱い立場にあるコミュニティの権利推進に尽力し、ホワイトハウス大統領人事局長や女性の地位向上大使を歴任。</p>                   |

◆基調講演（\*登壇順）

|                                                                                   |                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p><b>ネンナ・リリー・ヌワブフォ アフリカ開発銀行 副総裁</b><br/>         東部アフリカ地域局長、ケニア事務所長、コーポレートサービス担当副総裁代理などの役職を歴任。副総裁に就任以前は、アフリカ東部 13 カ国のポートフォリオを監督し、銀行の戦略的目標を推進する責任を担う。</p>                                         |
|  | <p><b>トリナ・ハク 世界銀行 西・中央アフリカ地域 人間開発担当地域局長</b><br/>         アフリカおよび中東・北アフリカ地域における人間開発分野のリードエコノミスト、ラテンアメリカ・カリブ地域における国別業務アドバイザー、そして最近では、西・中央アフリカおよび南アジア地域におけるセクターマネージャー／プラクティスマネージャーなど、さまざまな役職を歴任。</p> |

◆モデレーター・司会（\*アルファベット順）

|                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p><b>アヨーデ・アラキジャ トリプル・アイ共同議長 / FIND*理事長</b><br/>         ナイジェリアの首席人道支援調整官やアフリカワクチンデリバリーアライアンスの議長等を経て、FIND 理事長に就任。WHO の ACT- Accelerator の特使も務める。<br/>         *FIND (Foundation for Innovative New Diagnostics) 開発途上国における感染症に関する技術開発とイノベーションを促進するための支援を行う非営利団体（スイス）</p> |
|  | <p><b>鵜尾 雅隆 GSG Impact Ambassador</b><br/>         独立行政法人国際協力機構（JICA）・外務省国際協力局での 17 年の勤務を経て、G8 ロンドンサミットで誕生した社会的インパクト投資タスクフォース（現 GSG Impact）日本諮問委員会副委員長を務める。</p>                                                                                                         |

◆パネリスト及びその他の登壇者（\*アルファベット順）

|                                                                                     |                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p><b>スティーブ・デービス トリプル・アイ共同議長/ゲイツ財団シニアアドバイザー</b></p> <p>マッキンゼー・アンド・カンパニー シニアアドバイザー、WHO デジタルヘルス技術諮問グループ共同議長、世界経済フォーラム 著名研究員等を経て、2024 年にビル&amp;メリンダ・ゲイツ財団シニアアドバイザーに就任。</p>                                    |
|   | <p><b>平田 仁氏、JICA 上級審議役</b></p> <p>開発金融や国際協力で豊富な経験を持ち、保健・インフラ整備を推進。財務部長としてジェンダーや平和構築に関する JICA 債導入を進め、現在はアフリカを含む国際的な保健課題に対応するため、官民連携やインパクト投資の促進に注力。</p>                                                      |
|  | <p><b>エトレバ・カディリ UNICEF 東部・南部アフリカ地域事務所代表</b></p> <p>東部・南部アフリカ地域の 21 カ国の責任者として政府、ドナー、民間部門に対してユニセフを統括。ユニセフに 27 年以上在職し、直近では物資供給センター局長として、保健、栄養、水と衛生などの分野におけるサプライチェーン運営と市場形成機能を担当し、年間支出額 70 億米ドルを超える業務をけん引。</p> |
|  | <p><b>ディエン・ケイタ 国連人口基金事務局長代行</b></p> <p>ケイタは、国際開発および公共サービスの分野において 30 年以上にわたる豊富なリーダーシップ経験を有している。これまでに、ギニア共和国において協力・アフリカ統合担当大臣を務めたほか、UNFPA では、ナイジェリアおよびコンゴ民主共和国という同機関最大規模の事業国において代表を歴任してきた。</p>               |

|                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p><b>イルダ・クレーバ mothers2mothers アフリカ地域戦略的運営・パートナーシップ担当ディレクター</b></p> <p>16 年以上にわたり公衆衛生分野で国際機関および民間部門での経験を積み、2017 年から 2023 年まで mothers2mothers のモザンビーク国代表を務める。2023 年より現職に就き、新規事業立ち上げとアフリカ全域での資金調達パートナーシップの構築に尽力。</p> |
|    | <p><b>武藤 めぐみ 株式会社みずほフィナンシャルグループ、常務執行役員 グループ副 CSuO</b></p> <p>2025 年にみずほフィナンシャルグループに入社し、サステナビリティの統合とビジネス開発を推進。海外経済協力基金（OECF）、国際協力銀行（JBIC）、国際協力機構（JICA）での経験を持つ。</p>                                                  |
|   | <p><b>瀬戸 欣哉 株式会社 LIXIL、取締役 代表執行役社長 兼 CEO</b></p> <p>グローバルに展開する住宅設備・建材メーカー、LIXIL の CEO。住友商事でキャリアをスタートし、その後、MonotaRO を創業。間接資材のネット販売で、国内市場をリードする企業へと成長させた。国内外で 10 社以上を起業した経験を有する。</p>                                 |
|  | <p><b>鈴木秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使</b></p> <p>大阪生まれ。東京大学法学部卒業後外務省入省。これまでに、在米国日本大使館公使、在ベトナム日本大使館次席、北米局参事官、在韓国日本大使館次席、地球規模課題審議官、国際協力局長、駐チェコ大使等の要職を歴任。2024 年から特命全権大使（広報外交担当兼国際保健担当、メコン協力担当、南極条約協議国会議担当）を務める。</p>       |